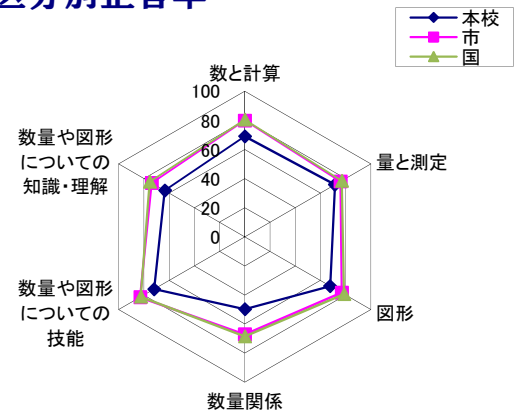


宇都宮市立清原東小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

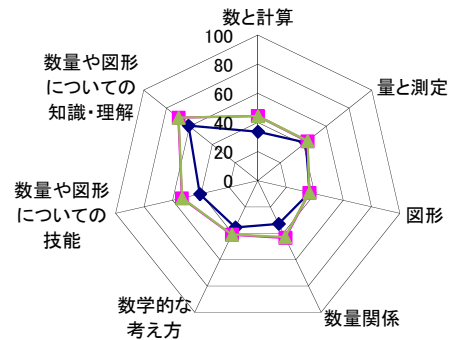
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	69.1	79.9	80.5
	量と測定	71.5	75.9	77.0
	図形	67.7	76.9	78.8
	数量関係	49.7	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	72.0	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	63.5	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	33.8	44.5	44.4
	量と測定	42.2	43.5	43.7
	図形	36.4	36.2	36.3
	数量関係	32.8	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	35.4	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	40.8	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	60.8	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●算数A, Bともに国の平均正答率を下回っている。 ●算数Aでは、文章題を苦手としていて、示された場面を図に表すことを苦手としている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小数のかけ算, わり算の計算の定着が図れるよう、授業での復習や朝の学習、宿題などで、繰り返し問題に取り組ませる。 ○文章題では、正しく立式するだけでなく、問題内容を図に表現させるようにする。特に割合に関しては、基本的な問題の解き方を復習するとともに、線分図などを用いて考えさせることにより定着を図る。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ●算数A, Bともに国の平均正答率を下回っている。 ○算数Bでは、正方形の縦と横の長さを変えた時の面積の変化の説明の平均正答率が、国の平均正答率よりも上回っている。 ●算数Aでは、三角形の面積の求め方の理解が不十分のため、底辺に対応する高さを正しく選ぶことができず、県や国の平均正答率よりも下回っている。 ○算数Bでは、示された四角形を並べてできる形を判断する問題の正答率が、国の平均よりも上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平行四辺形, 三角形, 台形など複数の図形の面積の求め方を混同して、あるいは忘れていた児童が見られるため、繰り返し問題に取り組ませることにより定着を図る。 ○公式を暗記させるだけでなく、式の意味を考えさせ、図や文章などに表現させることにより、求め方について実感を持って理解できるようにする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●算数Aでは、国の平均正答率を下回っている。 ○算数Bでは、国の平均正答率を上回っている。 ○算数Bの正方形に内接する円の半径の知識を問う問題では、国の平均正答率を上回っている。 ●算数Aの直方体における面と面の位置関係を問う問題では、国の平均正答率を15%も下回っており、理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○立方体や直方体の立体模型を用いたり、工作用紙に描いた様々な種類の展開図を組み立てたりすることにより、面と面の位置関係を実感を持って理解できるようにする。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●算数A, Bともに、国の平均正答率を下回っている。 ●算数Aでは、割合に関する問題の平均正答率が約25%と、7割以上の児童が理解が不十分である。 ●算数Bでは、示された事柄についてと二つの表をもとに読み取ることができない事柄を特定する問題の平均正答率が国の平均正答率よりも10%以上低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数資料を読み取り、関連付けて解く問題に取り組むとともに、練習問題で習熟を図る。 ○割合と百分率、比べられる量ともとにする量の関係を正しく理解させるとともに、生活とつなげて○割り引きなどの知識面を定着させる。また、文章題を繰り返し解くことで、線分図など、自分の力で図に表現する力を身に付けさせる。